

審査員総評

【今瀬審査員】

この事業は何年か実施されており、はじめの一步、テーマ型、継続して取り組んでいる団体も何団体が出ています。はじめの一步については、これからの何かに期待したいです。テーマ型、協働、これから難しいと思うのは、行政が主体となっていくのか、団体が主体となっていくのか、協働してやっていくのか、真剣に考えなければならないと思っています。

この募集要項の中でも、例えばテーマ型の A について、単に高齢者に対して機器の操作方法を教えるだけではなくて、住民間でデジタル防災技術を共有し合える技術的な体制を確立することを目指す。これをどうやっていくのか、どちらが民間でどちらを行政がやるかを、どのように一緒にやるかということ、もしこれから継続するということであれば、これができるかどうかということがまず柱になるわけですね。B のツクリテによる事業の方も、ツクリテの活動が瀬戸市の将来像の実現に向けて、原動力となるような存在になったらいいですね。それを民間と市がどちらが主体でやっていくのか。C の外国人の事業の方もですね、育成した外国人住民が自分のたちの強みは外国人ということで国際センターの事業を考えたり、自分たちのための国際センターの事業を考えたり、地域の外国人住民の中でキーパーソンとなって行政と住民を繋ぐ役割を担っていくことを目指すという、担当課からこんなことができたらい、でも行政の市の力だけでは足りないから一緒にやってほしいんだっていうことですね。今回まだどの団体さんがどうなるかわかりませんが、着手した団体さん、もし補助事業を使わないでやる団体さんだとしてもですね、この 1 年間でどうするかというのはもちろん大事なんですけども、この大きな目標像をどう本気でステップアップしていけるか、ということを考えながら取り組んで一緒にいけるといいのかなと改めて思います。

また、今回の予算的に全員が採択されないということですが、応援補助金って書いていますけど、行政の役割はお金以外にもあることは共有しておいた方がいいかなと思います。

仮に補助金を取れなかった団体さんが出るんですけども、どの団体かはまだわかりませんが、行政の役割はお金を配るだけの話じゃないですから。お金がなくても一緒にやろうよ、目の前のこの人困ってるよ、この子供や年寄りをほっとけなんだよ、この海外から来た 1 人でポツンという外国人ほっとけないんだよ、だから一緒に何とか応援してくれない？一緒にやろうよっていうふうに、ぜひ働きかけてみてください。だから、あくまでお金あってのものではないと思います。今回発表していただいた方の中には、困っている人の顔を思い浮かべながら喋ってくださった方がいました。ぜひ、行政にお金があろうがなかろうが、一緒に応援しようよ。というふうに言うただけだと思います。ぜひ皆さん頑張ってください。ありがとうございました

【谷口審査員】

皆さん、ありがとうございました。創作やアートに関する活動が市民活動としてサポートされているのが瀬戸市の特徴だなというふうに思い、非常に楽しく聞かせていただきました。

ただ、今日の皆さんの話を聞いたり質疑応答の中で、基本的にちょっと残念だなと思ったのが、やはり行政とどのような関係を作ったらいいかわからないといった声があったり、今瀬委員のお話もありましたけども、そもそも委託事業で協働をどのように位置付けるかが曖昧であったりしたことです。やはりこれは協働課であったり、活動センターがきちんと市民と行政の協働の関係性作りといったことに対して、ちゃんと市民にメッセージを示してきたのかという、大きな反省点ではないかなというふうに思っています。

ですので、市民活動の団体の皆さんも具体的に行政にどんな伴走をしてほしいのか、どのように一緒にやってほしいのかといったようなことをきちんと声を上げたらよいと思います。これは助成金があるなしに関わらず、瀬戸市の活動団体として活動するということに対して、行政とどう関係を作っていきたいのかということ、皆さんからもきちんと声を上げたらいいのではないかなというふうに思いました。

本日の審査をしながらしんどいなと思ったのは、制限があって選定から外れてしまう団体が今回出てくることです。ただ、どの団体の活動も私は意味があると思っていますので、きちっと継続して活動していただければと思います。この募集要項自体を含めて、選定の団体数ありきというようなところも含めて、もし市民の皆さんからこれは違うのではないかなというところがあるとするならば、そういった声もきちんと上げるのが皆さんの役割じゃないかなと思っています。皆さんの活動が1年間きちんと展開されることを祈念しております。ありがとうございました。

【三島審査員】

皆さん長い間お疲れ様でした。はじめの一步とテーマ型協働の2つの部門があり、はじめの一步の方は1年目と2年目の2種類の申請がありました。

1年目の団体さんについて、やはり何のためにその活動をするのか、どういう人に来てもらいたいのかということをしっかり考えるというようなことが大切な1年だと思います。おそらく、今ある取り組みから疎外されていたり、機会がなかったりという人が重要だと思いますので、その人たちのことを徹底的に考えて、最初の年にその人たちに届かないかもしれないけれども、しっかり考えてやっていく1年にしてください。

2年目については、やはり最終的なゴールは何かを今一度思い出して、それに向けて2年目というのはどういうステップの時期になるのか位置づけを意識していただくということが重要かなと思います。質疑でスタッフがこうなってほしいとか、生き生きと返答できた団体さんいらっしゃいましたが、そのように、活動に関わってくださる方や協力していただける方とどんな関係を作っていくのが、2年目はより重要になります。そうしたことが前進する2年目になるといいなと思います。

協働の方は、行政が感じている課題意識をきちんと共有しながら、団体がどんな役割

を果たせるのかが重要になりますが、課題が受け止めきれてないようなところも若干見受けました。また、質疑でも出てきましたが、リサーチということが重要になると思います。どういうニーズがあるのかを今一度しっかり調べる。そのときに行政と協働する事業は、行政が持つてゐる情報を色々共有していただきやすいと思います。ぜひそういう点を一步踏み込んで効果的な事業にしていだけたらなと思います。

最後に、今回採択されない団体さんいらっしゃるのには心苦しく思いますが、採択されなかった団体こそが何か一番いい勉強ができるといいと思っています。センターや市の方も、こういう点が良かったがこういう点が足らなかったということを振り返り対話して、今回の経験が生かされるようにと思いました。

【大秋審査員】

皆さんがすごく頑張っている活動を市民の1人として応援したいと思います。

ただ先ほどからもありましたように、残念なことになる団体さんもいらっしゃると思うんです。でも頑張っていていていただきたいし、市民の1人として皆さんを応援したいというふうに思っています。

応援補助金というのは、これ一回限りの活動の場合もあるんです。これからどう継続させていくのかということが大事で、さっきの三島委員がおっしゃったように、リサーチが大事で、どこにどんなニーズがあるのか、自分たちの思いだけで活動するのではなくて、皆さんがこの地域の中で、こんなところで困っている人たちがいるよということを、やはり調べていただきたいし、隅々に困っている人はたくさんいるんですよ。私も自身の活動で、認知症の人の家族とかそういう方を見ているんですけども、本当に、隅々に困っている人たちがたくさんいるということを、私はよくわかっています。なので、そういうその地域の隅々のところに手が届くような、そんな活動をしていただきたいなというふうに思っています。

自分たちでしっかりやれないというふうに思わずに、オープンの協力できる団体が今回もたくさんあると思うんですね。もし万が一、何かの都合で落ちちゃったということでも、そういう協力できる団体と一緒にやっていただけると嬉しいなというふうに思いますので皆様よろしくお願いします。ありがとうございました。